保育学科ゼミナールにおける「食育」実践報告 第６報

―― 平成27年度の大型紙芝居制作・発表を中心に ――

高　杉　志　緒

The Sixth Action-Training Report on "*Shokuiku*"

Centered on the Production and Presentation of "Large Scale Picture-Story Shows" (Fiscal Year 2015) at the Department of Early Childhood Education and Care Seminar

by
Shio Takasugi

要旨

本稿は、平成27（2015）年度における保育学科ゼミナール授業活動（総合学習）に関する教育実践報告である。平成17（2005）年「食育基本法」が制定されて以降、保育の現場でも「食育」の導入が本格的に行われていることに鑑み、平成21（2009）年度から報告者は「食育表現ゼミナール」を担当している。ゼミナール所属学生は「食育」を主題とした表現媒体の制作、すなわち子ども達に分かりやすく食の大切さを伝えることを目的としたカルタ・紙芝居・双六などを制作して発表してきた。特に平成27年（2015）度は、学生を主体に山口県オリジナル野菜「はなっこりー」〔平成2（1990）年山口県農業試験場による品種改良野菜〕を主題として、1）絵本制作（前期）、2）第56回中・四国保育学生研究大会における研究発表（11月22日）、3）大型紙芝居制作・発表（「第28回下関短期大学保育学科創作発表会」（12月12日）、「下関短期大学付属第二幼稚園おにぎり作り教室」3月3日）、以上3つの活動を行うことができた。本活動を通じて「領域『言葉』を土台に『食育』に関する保育学生の資質向上を図る」目的は概ね達成できたと考えられる。今後も、保育現場や地域に根差した「食育」を主題とした総合的な活動の展開が必要と考えられる。

キーワード：食育基本法、絵本、下関ぶちうま食育プラン、はなっこりー、
やまぐちの農林水産物需要拡大協議会、アクティブ・ラーニング、
領域「言葉」

Summary:

This paper is an educational action-training report on teaching activities (integrated studies) conducted during fiscal year 2015. Ever since the enactment of the "*Basic Law of Shokuiku*" in 2005, "*Shokuiku*" or food and nutrition education has been introduced in Japan on a full scale even in the field of *Early Child Education and Care*. In view of this, I have been placed in charge of the "*Shokuiku Expressive Seminar*" since fiscal year 2009. Composed mainly of students who wish to make a career out of *Early Childhood Education and Care*, presentations have been made of our production of *Karuta* or traditional Japanese playing cards, pictures story shows and *Sugoroku*, a Japanese variety of the game of Parcheesi, all for the purpose of conveying the concept of "*shokuiku*" more understandably to children. As a special notation for our academic fiscal year 2015 (April 1, 2015–March 31, 2016), I would like to mention three activities were completed, mostly by students, addressing the theme of "Hanakkori" (Brassica napus cv. Hanakkori, a hybrid of choy sum and broccoli, an original vegetable created at the Yamaguchi Prefecture Agricultural Experimental Station in 1990). These consisted of 1) the production of large scale picture-story shows (during the first half of the academic fiscal year from April through September), 2) presenting our research paper at the "56th Chugoku-Shikoku Childcare Students Research Conference" (November 22) and 3) the presentation of large scale picture-story shows at the "28th Shimonoseki Jr. College Early Childhood and Care Presentations" (December 12) and at the "Shimonoseki Jr. College Annex Kindergarten "Onigiri" (Rice ball) Making Class" (March 3). Through these activities, we believe our objective of improving on the capabilities and skills of *Early Childhood Education and Care* students by placing the groundwork on "regional language" has by and large been attained. However, I believe that a continued effort on unfolding comprehensive activities addressing themes of early childhood education and care fieldwork and/or "Shokuiku" taking root regionally, will be necessary.

Keyword: Basic Law of *Shokuiku*, Picture book, Shimonoseki "Just Tasty" *Shokuiku* Plan, Hanakkori (Brassica napus cv. Hanakkori), Yamaguchi Association for the demand expansion of agriculture and fisheries , active learning, regional language.

1　はじめに　―「食育表現ゼミナール」活動と本稿の目的―

平成17（2005）年６月「食育基本法」（法律第63号）が定められてから約12年が経過した。同基本法では「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむ」（第１条）ことを目的として、国・都道府県・市町村・関係諸団体などを中心に様々な「食育」活動が展開されている。周知の通り、下関市でも平成20（2008）年度から第一次、平成25（2013）年度から第二次の各５年間を計画期間とした食育推進計画「下関ぶちうま食育プラン」が策定され「学校・幼稚園・保育所等における推進」が行われている[(1)]。

特に保育現場における食育については、平成21（2009）年４月施行「保育所保育指針」（第５章「健康及び安全」における「3　食育の推進」の新設）、同年同月施行「幼稚園教育要領」（第２章「健康」における「食育」の明記）、平成26（2014）年４月制定「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（第１章「食育の推進」）に、それぞれ現場における食育への留意が記された。

更に平成29年（2017）、上記３つの指針・要領が改定され、領域「健康」においても「内容」５番目に「先生（保育士等、保育教諭等）や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心を持つ」（下線部筆者）という文が加わり[(2)]、食べ物への興味関心を育むことが明記されている。

以上の状況をふまえつつ、筆者は「食育」を「５領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表

表１　保育学科　食育表現ゼミナール活動概要一覧

開講年度	主な活動内容	所属学生内訳	『下関短期大学紀要』掲載号数
平成21（2009）	前期・後期：「山口食育カルタ」制作・実践 後期：「食育および山口の食材について」ポスター発表	1年2名、2年3名	29号（注3）
平成22（2010）	前期：「下関ぶちうま食育プラン」研究 後期：大型紙芝居制作・発表「あすかちゃんとトマト」	2年4名	32号（注4）
平成23（2011）	前期：「食育双六」制作・発表と被災地発送、 後期：大型紙芝居制作・発表「山口さんちのある一日」	1年4名、2年6名	前期：30号（注5） 後期：32号（注4）
平成24（2012）	前期：バケツ稲栽培、ポスター発表「全国のブランド米」 後期：大型紙芝居制作・発表「きらきらマイ・ドリーム」	1年5名、2年2名	34号（注6）
平成25（2013）	前期：ポスター発表「山口県の農産物」 後期：ポスター発表「食育双六」、 大型紙芝居制作・発表「りんごの国のおひめさま」	2年7名	35号（注7）
平成26（2014）	前期：公開講座手遊び・媒体作成「夏野菜カレーの歌」 後期：「食育双六」制作・発表	1年1名、2年1名	前期：33号（共同稿、注8）
平成27（2015）	前期：地域貢献活動での絵本読み、手作り絵本制作等 後期：第56回中・四国保育学生研究大会　研究発表 大型紙芝居制作・発表「はなっこりーの冒険」	1年2名、2年1名	前期：34号（共同稿、注9） 後期：36号（本稿）

注）平成28年（2016）度と平成29年（2017）度は選択希望学生０名のため不開講

現）の総合的な展開が必要な活動と捉え、平成21年度から本学保育学科において「食育表現ゼミナール」を開講した。授業目標を「『食育』に関する『言語表現』活動実践を通じた保育学科学生の資質向上」と設定し、選択希望学生を主体とした「食育表現ゼミナール」（1•2年生合同総合学習、以下「本ゼミ」と略記）を担当してきた。「食育」や「栄養」に関する専門知識・指導については、適宜、本学の栄養健康学科教員に指導を受けながら活動を進め、1. 言語表現媒体・教材と「食育」についての学習、2. 実践的な言語表現能力の向上・実践、以上2つを主眼に授業展開を継続している。過去における本ゼミの活動概要及び報告歴を別表にまとめた（**表1**）。本稿では以下、平成27年（2015）度における本ゼミの活動報告を行う。

2　実践報告

本章では最初に保育学科ゼミナール及び本ゼミにおける通年における活動概要を述べた後（**2•1**）、平成27年度前期（**2•2**）、平成27年度後期（**2•3**）の活動報告を行う。

2・1　実践概要

保育学科ゼミナール（以下「ゼミ」と略記）は、学生が所属ゼミを選ぶ希望選択制であり、担当教員あるいは所属学生が希望する研究対象を主体として授業を展開している[(3)]。通年授業で（前期15回、後期15回）、①1・2年生合同の活動が前提、②後期12月「創作発表会」にて下関市内の施設を借り地域住民に対するゼミ毎の研究発表披露、以上2つを特徴としている。各ゼミは学生の希望選択制のため年度毎に所属学生数の差があるが、1年間の流れは次の通りである。

・前期：所属ゼミナールの希望調査・所属先決定、ゼミ毎に具体的な活動を決定して活動開始
・後期：ゼミ毎の活動推進、12月「創作発表会」における研究成果発表、次年度への反省

具体的な活動内容は各ゼミ一任のため、本ゼミでも所属学生と共に年度毎に決定している。次に報告者が指導を担当する本ゼミ（「食育表現ゼミナール」）について概要を述べる。

平成27年度における本ゼミの授業活動概要は次の通りである（表2）。平成27年度の所属学生は3名（2年生1名、1年生2名）で、2年生は1年次からの継続者であり、全員が社会人入学生で、学年当初から「食育」に強い興味関心をもっていた。次に、前期・後期に分けて活動報告を行う。

表２　平成27年度「食育表現ゼミナール」授業活動概要一覧

平成27年度(前期：児童文化Ⅰ・Ⅱ)授業概要

授業回数	開講日	内容
1	4月8日	1年全体説明(所属ゼミナール選択)
2	4月15日	下関市の「食育」について、今後の活動について
3	4月22日	手作り「食育」絵本制作①(主題選択)
4	5月13日	手作り「食育」絵本制作②(目的・対象者設定)
5	5月20日	「母子手帳」と子どもの食事 手作り「食育」絵本制作③(あらすじ考案)
6	5月27日	手作り「食育」絵本制作③(掲載文言考案)
7	6月3日	手作り「食育」絵本制作④(文言考案・レイアウト) 地域貢献活動絵本読み練習①
	6月10日	(2年生教育実習)　→　休講
	6月17日	(2年生教育実習)　→　休講
8	6月24日	手作り「食育」絵本制作⑤(文言考案・レイアウト) 地域貢献活動絵本読み練習②
9	6月27日(土)	地域貢献活動「第3回おいしいね　たのしいね！」親子講座①(スタッフ・大型絵本読み聞かせ)
10	6月28日(日)	地域貢献活動「第3回おいしいね　たのしいね！」親子講座②(スタッフ・大型絵本読み聞かせ)
11	7月1日	・地域貢献活動「第3回おいしいね　たのしいね！」親子講座　反省会 ・絵本主題「はなっこりー」に関する質問事項整理
12	7月8日	手作り「食育」絵本制作⑥(下書き)
13	7月15日	・公開講座「みて　つくって　楽しんで」反省会 ・手作り「食育」絵本制作⑦(下書き・清書) ・「はなっこりー」の回答共有・話し合い
14	7月22日	手作り「食育」絵本制作⑧(清書)
15	7月29日	・手作り「食育」絵本、完成作品の相互鑑賞 ・前期活動の反省・後期活動内容の話し合い

平成27年度(後期：保育実践演習Ⅰ・Ⅱ)　授業概要

授業回数	開講日	内容
1	9月16日	・「はなっこりー」に関する回答共有・話し合い ・後期活動計画、大型紙芝居主題決定
2	9月30日	大型紙芝居　あらすじ原案作成①
	10月7日	(2年生教育実習)→休講
	10月14日	(2年生教育実習)→休講
3	10月21日	・大型紙芝居　あらすじ・台本作成① ・大型紙芝居　絵の下書き①
4	10月28日	・大型紙芝居　あらすじ・台本作成② ・大型紙芝居　絵の下書き②
5	11月4日	・中・四国保育学生研究大会研究発表内容検討① ・大型紙芝居　絵の下書き③
	11月11日	11月8日桜山祭(大学祭)につき月曜日課
6	11月18日	・中・四国保育学生研究大会研究発表内容検討② ・大型紙芝居　絵の彩色①
	11月22日	第56回中・四国保育学生研究大会における研究発表「食育表現の媒体作成に関する一考察」
7	11月25日	・中・四国保育学生研究大会　反省会 ・大型紙芝居　絵の彩色、ペープサート作成①
8	12月2日	・大型紙芝居　絵の彩色、ペープサート作成②
9	12月9日	大型紙芝居「はなっこりーの冒険」台本確認・発表練習
10	12月11日	(金)第28回下関短期大学保育学科創作発表会 リハーサル(ポスター発表準備、紙芝居発表練習)
11	12月12日	(土)第28回下関短期大学保育学科創作発表会、大型紙芝居・ポスター発表
12	12月16日	創作発表会ビデオ鑑賞・反省会
13	1月13日	大型紙芝居「はなっこりーの冒険」台本改善・発表練習①
14	1月20日	大型紙芝居「はなっこりーの冒険」台本改善・発表練習②
15	1月27日	・大型紙芝居「はなっこりーの冒険」発表練習③ ・3月3日「おにぎり教室」打ち合わせ
	3月3日	栄養健康学科「幼児の食育ゼミナール」・下関短期大学付属幼稚園主催「おにぎり教室」食育活動(紙芝居発表等)

2・2　平成27年度前期活動報告

平成27年度前期、本ゼミに所属した合計３名は、第２回授業時に下関市が発行した「第１次下関ぶちうま食育プラン」「第２次下関ぶちうま食育プラン」を概観した。特に後者の「めざす姿」が「いのちを考え、「生きる力」を育む財産づくり」であり、「体（望ましい食習慣の実践）・心（命への感謝）・家庭（食卓＝人間教育の場）・故郷（食文化の伝承）」、以上４つの「財産づくり」を目標としていること学んだ[(1)]。下関市における食育の取組についての学習と並行して、第２回授業の後半では、具体的な研究活動の主題を決定するために話し合った。その結果、前期の研究主題は「食育」を主題とした手作り絵本制作・発表に決定した。その理由は、「絵本を通じて子ども達に食べることの楽しさ・大切さを伝えたい」という意見に全員が賛同したためである。この話し合いに基づき、前期は各自の主題選択による「食育絵本」の制作研究・発表を行った（2•2•1）。

2・2・1　平成27年度前期　手作り「食育」絵本制作の調査研究・制作について

平成27年度前期の研究主題となった「食育絵本」の制作に対し、学生の話し合いの結果、グループ研究ではなく、各自が興味を持った主題を選択して個別に調査研究をすすめることと

した。

但し、制作の共通事項として４回目授業で⑴発表時期と形態・⑵対象年齢・⑶体裁を設定した。

⑴発表時期と形態：ポスター発表（７月公開講座「みて　つくって　たのしんで」、12月創作発表会）

８月　被災地保育所への「手作り絵本」送付

⑵対象年齢：５～６歳児（絵本に親しんだ経験があり、文字に興味や関心をもつと考えらえる）およびその保護者

⑶体裁：全８頁のＡ６判折本（Ａ３用紙１枚を８つ折りし中央に切り込みを入れて制作）[10]

黒一色刷で複数制作・発表・配布（輪郭線を太くして塗り絵にできるようにする）

上記３つの事項を念頭に各学生が絵本の制作を行うこととした。更に担当教員から⑶体裁について、制作前に予め配慮すべき点を伝えた。

・表紙を含めて８頁しかないので、表紙・裏表紙も上手く活用して話の展開を考えること

・ゼミ生が制作した３種類の絵本は、複数冊印刷して被災地の保育所への送付（宮古市内保育所３施設に各20冊）も発表の場と考えるので[11]、塗り絵としても楽しめるように太い文字・輪郭線の太い絵柄にすること

以上２点の制作における配慮を伝えた。これらの共通事項・配慮点と「第２次下関ぶちうま食育プラン」における４つの「財産づくり」を参考にして、各自が制作する絵本の題名とねらい（目標）を考えた。その結果、本ゼミ所属学生３名は、絵本の題名（ねらい）を次の通りに設定した（前期第３～５回授業）。

①「なつやさいのカレーをつくろう」（「心の財産づくり」命への感謝・食に関する正しい知識）

②「いちばんのごちそう」（「家庭の財産づくり」食べる喜び・食べてもらう喜びの共有）

③「はなっこりーのぼうけん」（「故郷の財産づくり」食文化の伝承）

①「なつやさいのカレーをつくろう」は、２年生による食育絵本である。作者がボランティア参加した１年前期の公開講座（親子クッキング）での献立が「なつやさいのカレー」であり[8]、１年後期に本ゼミで「スペシャルカレーすごろく」と題した食育双六を作った（**写真１**）。この１年次の経験を基に絵本を制作した。

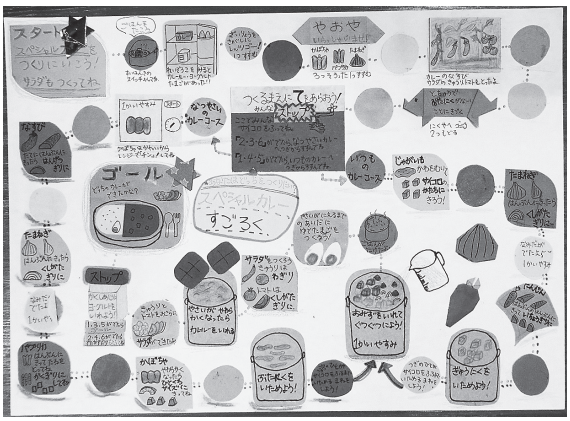


写真１　食育絵双六「スペシャルカレーすごろく」
（平成26年度「食育表現ゼミナール」小西真琴制作）

②「いちばんのごちそう」は、家庭における食の団欒の重要性を伝えることを目的として制作を行った。制作の際は、「第２次下関ぶちうま食育プラン」を参考にしながら、家庭で食卓を囲む和気あいあいとした様子が伝わる挿絵の構図を工夫し、見開き（６頁分）を３場面に分け、最後を家族の会食場面とした。

③「はなっこりーのぼうけん」は、後期の大型紙芝居制作・発表でも主題となった。そこで、「はなっこりー」について若干の説明を加えたい。「はなっこりー」とは、平成２年（1990）に山口県農業試験場で品種改良された山口県オリジナル野菜であり、秋から春（11月頃～３月頃）にかけて下関市内にも流通している。「身近でおいしい野菜として親しんで頂けること」、「お年寄りや女性でも比較的栽培が容易であること」を目標として誕生したという[(12)]。

「はなっこりー」を学生が主題とした理由は、「山口県オリジナル野菜」に興味を持ったためである。「はなっこりー」について、下関市在住の学生には馴染みがあったが、本ゼミの北九州市在住学学生は「はなっこりー」を知らなかった。地元ではありふれた存在と感じている食材が、他地域では珍しいことに気付いたことが契機となった。また、緑黄色野菜が苦手な子どももいるため、絵本を通じて地元食材の理解を深め苦手意識をなくすことは「故郷の財産づくり」につながると考えた。

あらすじは、「はなっこりーが出来るまで」「はなっこりーが出荷されて家庭に届くまで」「はなっこりーの色々な食べ方」という３場面を設定し、絵本制作にあたることとした。これに伴い、「はなっこりー」について、前期は以下２つの研究活動を行った。

【①　はなっこりーの生長・栽培についての調査研究・話し合い】

「はなっこりー」の生長・栽培については、「JA全農やまぐち」や「やまぐちの農林水産物需要拡大協議会」（以下「拡大協議会」と略記）等が作成・公開しているホームページの閲覧を中心に行った[(13)]。絵本制作者は１年生１名であったが、調べたことを毎時間、ディスカッションして共有した。生産農家への直接インタビューも考えたが、前期研究期間（５～８月）は、栽培・収穫期からはずれるため、実施を見送った。その代わり、絵本制作に関する疑問点をまとめて「はなっこりー」に関するホームページの作成・公開を行っている拡大協議会に７月２日、直接担当教員から電子メールを通じて下記２と併せて質問・連絡を行った。ディスカッションをふまえた生長・栽培・出荷に関する学生の質問は次の通りである。

・「栽培方法は夏から秋に苗を定植し」とあるが[(13)]、種の様子と苗をどこで育てているのか
・「秋から春まで順次収穫します」とあるが[(13)]、具体的な日数・生長・大きさの関係、収穫の目安が知りたい
・「山口県内では、ほとんどのスーパーで売られていますが、県外でも近県や都市のデパートなどで販売されているそうです」とあるが[(12)]、具体的な量と県外の出荷量（どの地域まで）

なのか

この質問に対し、後述する経緯によって杉山久枝様（山口県農林水産部　農業振興課園芸振興班主任）から丁寧な御教示を頂いた（**図 1**）。この資料は、本ゼミ学生全員で情報共有し、制作担当学生は「はなっこりー」の挿絵（葉の形、付き方など）を描くことができた（第 13 回授業）。

【②　イメージキャラクター「はなっこりん」と「はなっこりーの歌」の使用承認申請】

「はなっこりん」とは、拡大協議会のデザインマニュアルに掲載されている「はなっこりー」をイメージしたキャラクターである。ホームページ掲載をはじめ[13]、「はなっこりー」を入れた市販の袋に印刷されている（**写真 2**）。従って、馴染みのあるキャラクターを主人公に絵本を作りたいという希望を持った。

写真 2　山口県産「はなっこりー」（袋中央に「はなっこりん」印刷、平成 27 年 11 月 17 日購入）

また、作詞：津山菜穂子・作曲：白木浩司「はなっこりーのうた」は、下関市内のスーパーマーケットや地元局（テレビ）のコマーシャルでも流れていたので、市内では既に周知されていた。歌詞の表現「はなっこりーをたべちゃろう　やまぐちうまれのみどりやさい」などにより「山口県産」「緑黄色野菜」という特徴を分かりやすく伝えられること、「はなっこりーをぱっくりー　たべてにっこりー」など韻を踏んだ語感の良い歌詞は子ども達が親しみをもちやすいこと、以上の 2 点から絵本への掲載を希望した。

上記キャラクター・歌詞使用希望に関する学生主体のディスカッション中に、担当教員は保育現場でも「著作権法」を守ることの重要性について助言を行った（第 11 回授業）。具体的には、非営利の手作り絵本でも多数の方々に出版物として配布する場合、①掲載・使用許可を著作者や関係する管理団体から得る必要があること、②著作者・参考文献名・URL など出典を明記する必要があること、2 点を中心とした説明を行った。

学生との話し合いをふまえ、上記 1「はなっこりーの生長・栽培」に関する質問と共に拡大協議会に 7 月 2 日、直接担当教員から電子メールを通じてキャラクター「はなっこりん」使用に関する質問・連絡を行った。その結果、申請時には所属長である学長印が必要と判明したためゼミ担当教員名で学内決済手続きを行い、正式に申請許可を頂いた（やまぐちの農林水産物需要拡大協議会「ぶちうま！第 62 号　ぶちうま！キャラクター等使用承認書」平成 27 年 7 月

はなっこりーの栽培について

平成 27 年 7 月 15 日
杉山久枝（山口県農林水産部　農業振興課園芸振興班主任）

1　はなっこりーの苗
　ＪＡの育苗センター、または、農家が自分で、苗を作っています。
　下関では、ＪＡの育苗センターで作られたものを植えています。

2　はなっこりーの種
　２mm 程度の大きさで、黒くて丸いです。（左記写真参考）

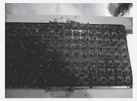
3　はなっこりーを収穫するまで流れは、ざっと以下のとおりです。

①種まき → ②苗づくり → ③苗の植え付け → ④頂花蕾（ちょうからい）の摘み取り → ⑤収穫

（時期例）８月　　９月　　10 月　　11 月～

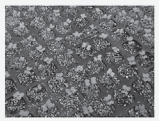
≪解説≫

①種まき
　セルトレイに土を入れて、種を播きます。
　（トレイに土を入れて、１つ１つの部屋に１粒ずつ種を播きます。）

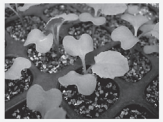


出典：はなっこりー栽培マニュアル（改訂版）

②苗づくり
　種を播いて１週間くらいすると、双葉がきれいに揃います。
　種を播いて２週間くらいで、本葉が１枚になり、
　種を播いて３週間くらいで、本葉が２枚（長さ 10cm 程度）になり、苗の完成です。



播種１週間後



播種２週間後

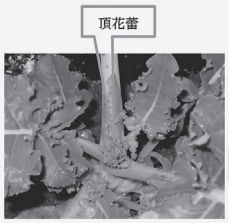
播種３週間後（苗の完成）

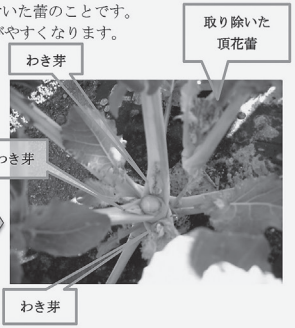
③苗の植え付け
　畑に苗を植えます。
　このときに、ぐらぐらしないように双葉の所まで、しっかりと土をかぶせます。

≪補足≫
　種を直接、畑に播かずに、苗を作ってから植える理由は、芽が出たばかりの頃のはなっこりーは弱く、イモムシ等の害虫に食べられてしまったり、病気にかかって枯れてしまうからです。このため、虫を寄せ付けないようにハウス等で、ある程度大きくしてから、植える方法をとっています。

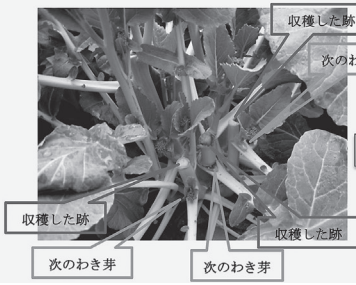
出典：はなっこりー栽培マニュアル（改訂版）

④頂花蕾（ちょうからい）の摘み取り
　苗を植えてから１か月半の頃には、高さ 40cm 程度の大きさになり、頂花蕾ができます。
　「頂花蕾」とは、てっぺんに最初に付いた蕾のことです。
　これを取り除くことで、わき芽が伸びやすくなります。





⑤収穫
　頂花蕾を摘み取って 10 日程度で、わき芽が 20cm くらいに伸びてきます。次のわき芽を１～２つ残して、20cm くらいのものを花が咲く前にポキポキ折って収穫します。
　収穫したところにも、わき芽があり、これが伸びて収穫します。
　収穫したら次のわき芽、わき芽が伸びてまた収穫、収穫したら次のわき芽　と、次々に収穫ができます。
　※歌詞の中にある、「次々芽が出る元気野菜」とは、上記の意味です。



わき芽が伸びて収穫

図１　杉山久枝氏（山口県農林水産部　農業振興課園芸振興班主任）「はなっこりーの栽培」回答説明（平成 27 年 7 月 15 日）

24日付)。

他方、「はなっこりー」に関する質問に対しては、杉山様からのメール回答のご教示によって（7月15日付、**図1**)、歌詞の中の文言「次々芽が出る元気野菜」は、次々生える「わき芽」を収穫する現状を反映させたことが分かった。このように「はなっこりー」について知識を深めることによって、歌詞をより正しく理解することができた（第13回授業)。

上記の経緯により、「はなっこりん」を主人公とした絵本「はなっこりーのぼうけん」の制作・発表をさせて頂くことができた。

2・2・2　平成27年度前期制作　手作り「食育」絵本の発表について

食育絵本の発表時期について、当初は、7月11日㈯・12日㈰開催の公開講座「みて　つくって　たのしんで」において、完成作品を拡大コピーしたポスター発表を行う予定であったが、3名とも完成が間に合わなかった。そのため、前期最後の授業（第15回）で相互に鑑賞を行い、8月に宮古市の保育所（3箇所）に各20部ずつ送付し、ポスター発表は「第28回創作発表会」にて行った（**写真3**)。

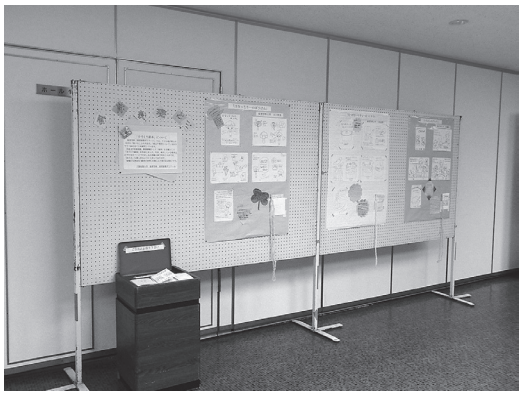


写真3　ポスター発表「手作り絵本」作品発表
（「第28回　創作発表会」平成27年12月12日）

学生が制作した手作り絵本作品については、ポスター発表時の状況写真〔教員が誤字脱字等を確認の上、B4版に拡大印刷した書類を大判用紙（B1:72.8 × 103㎝）に貼付・展示〕と制作者が記した各作品の紹介文（注目して欲しい点、工夫点、感想・反省など）を報告する。

【①小西真琴「なつやさいのカレーをつくろう」】（写真4）

1）この本のイチオシ（一番の注目点）

・この絵本をみながら一緒に料理も作れるところ

2）制作者の工夫点

・野菜の切り方を分かりやすく描いたこと

・普通のカレーだとニンジンやジャガイモを使うが、夏が旬の野菜（パプリカ、ナスなど）を知って欲しいと思い、「夏野菜のカレー」を主題としたこと

3）感想・反省

・何を（絵本の）題材にするのか考えた時、昨年度の双六作り（絵双六「カレーすごろく」）を思い出した。子ども達が絵本を見ながらカレーを作ってもらいたいと思い「なつやさいカ

レー」の絵本にした。

・８ページの中でおさまるようにどうすれ良いか、１ページにどこまで入れると良いか考えて作ったのが少し難しかった。反省として、ただカレーを作るのではなく、主役になる子どもや動物等を描いてストーリーを考えれば良かったと思う。

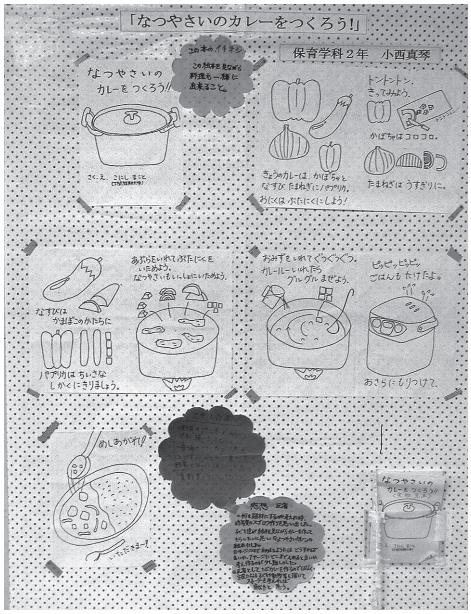


写真４　小西真琴なつやさいのカレーをつくろう」

写真５　久留優美「いちばんのごちそう」

【②久留優美「いちばんのごちそう」】（写真５）

1）本に込めた私の願い

・家庭は食に関する最も中心的な場所であり、食育の基礎となる場であることを、絵本作りを通して再確認しました。

・現在、外食は手軽で簡単であり、孤食が増えつつある中、誰もが健やかな心を育むために欠かせないものは食に込められた愛情なのだと感じています。食事を愛情に満ちた場になる様な「生きる力」を育む基礎的な人間教育の場になるよう願いを込めました。

2）工夫した点

・食育表現ゼミの活動により私は心の財産、家庭の財産づくりに着目し、この絵本を作りました。

・食卓での家族のふれあいや共食を通じて望ましい食習慣の定着を図り、食への関心や感謝の気持ちを育んでほしいと思って作りました。

・工夫した所は、それぞれの場面における人物の表情です。そして毎日の家族での楽しい食卓を想像しながらぬり絵、お絵かきを楽しんでほしいと思い、食卓のお皿には子ども達の一番

好きなごちそうを描けるよう空皿にしました。「一番好きなごはんは何かな？」「今日のごはんは何がいいかな？」など親子での会話も楽しみながら描いてほしいと思っています。

【③大川智美「はなっこりーのぼうけん」】（写真６）

1）この本のイチオシ（一番の注目点）

・子どもに親しみをもってもらえるよう「キューン」や「ニョキ」など擬声語・擬態語をつかった点です。読む時やぬり絵をする時に擬声語に触れてもらい、言葉を楽しんで欲しいと思っています。

2）工夫した点

・山口県で誕生したはなっこりーについて知ってもらいたかったので８ページという限られた中で、はなっこりーの色々な面を紹介したことです。はなっこりーの誕生から生長、出荷先、栄養や調理法など沢山の内容を盛り込みました！

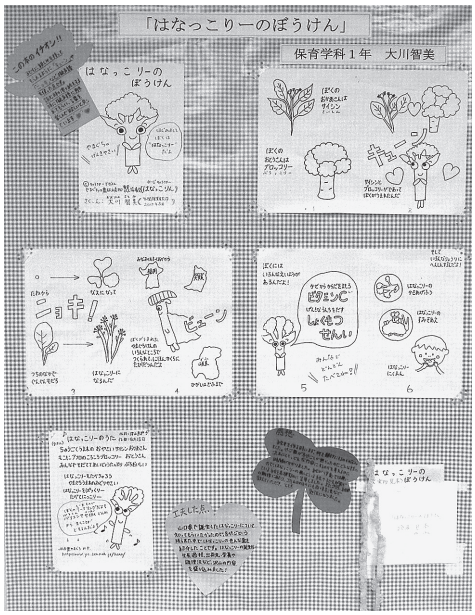


写真５　大川智美「はなっこりーのぼうけん」

3）感想

・絵本を作る時にまず、何を題材にするのか悩みました。ページ数が８ページしか無かったので、どんな話の流れにして、どんな内容にするのかを考えるのに時間がかかりました。

・絵が得意ではないので、はなっこりーの飛んでいる絵や子どもが食べている絵を表現するのに苦労しました。

・今回、絵本の制作にあたり、「山口の農林水産部需要拡大協議会」や山口県農林水産部の方々にも栽培方法など教えていただき、とても勉強になりました。

当初、ポスター発表は「第 28 回　創作発表会」（12 月 12 日）のみの予定であったが、翌年度にも学内図書館で約４カ月間、発表を行った。異なる年度での展示となったため、拡大協議会にポスター発表が可能であるか再度確認後、「平成 28 年（2016）度　山口県大学 ML（ミュージアム・ライブラリー）連携特別展」（共通展示テーマ「はぐくむ」、本学の展示テーマ「豊かな心をはぐくむ～絵本にみる保育と食育～」）にて、本学図書館２階ロビー（平成 28 年 10 月３日～平成 29 年１月 31 日）で「手作り絵本コーナー」として展示を行った[14]（**図２**）。展示期間中は、学内外からの来場者にもお越し頂き、アンケート調査（希望者のみ、記述式）を

行ったところ期間中で合計23人にご回答頂いた。その中で、「印象に残った展示物」として６名の方々が「学生の手作り絵本」（本ゼミ学生３名のポスター展示）を挙げており、自由記述欄に「手作り絵本。もっと完成度を高めていくとおもしろい」「学生の手作り絵本はあたたかみがあって良かった」「手作り絵本の展示が個性的で良かったです」「白黒の手作り絵本にぬり絵もできるという工夫もされていて、おどろきました。」「手作り絵本の展示。食とからんでおり、おもしろい。子供たちも興味の持てる内容の絵本でした。白黒なので色をつけてみて読んでみたいと思いました。」という感想を頂いた。

下関短期大学 図書館
『豊かな心をはぐくむ
～絵本にみる保育と食育～』

住　所：〒750-8508　下関市桜山町 1-1
電　話：083-223-5340
e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp
http://www.shimonoseki-jc.ac.jp/33_library/index.html
●開催期間：10 月 3 日（月）～ 1 月 31 日（火）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：土・日・祝日
※11 月 5 日（土）・6 日（日）は臨時開館

【展示内容】
本学には、栄養健康学科と保育学科があり、双方が絵本を通じて保育や食育活動を展開しています。そこで今回は、館蔵の絵本・学生が作成した絵本の紹介媒体などを中心に展示しました。同時に「豊かな心をはぐくむ」ための図書館と学生協働などについても考えました。

【主な展示品】
・手作り絵本
・学生による絵本の解説

【観覧者数】
不明

【関連事業】
・桜山祭（大学祭）における絵本読み舞台発表（11 月6日）
および特別増設展示（11 月5～6日）

【成果】
展示を通じて図書館における学生協働活動（平成 25 年度～ 28 年度）、及び館蔵絵本を紹介することができました。学内教職員だけでなく、学生が展示資料制作者となることによって、図書館協働活動を相互に考えることができました。展示期間内に大学祭（11 月5日（土）、6日（日））が含まれていたため、保護者・地域住民の方々にも観覧して頂くことができました。昨年度同様、「図書館報」にML連携展（下関市内5大学分）の概要を紹介し、学内 10 箇所、及び付属高校・付属幼稚園に掲示して広報に努めました。また、学外観覧者として梅光学院大学の博物館学芸員資格取得希望学生に個別訪問を頂きました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】
次年度、山口県立博物館での連携展はどの程度の共通事項を決めるのか（例：展示資料目録・解説パネル・キャプションの共通の書式・形式設定の有無、展示作品の保険など）、また、関連シンポジウムを行うのであれば、開催時期・内容など早期に決定する必要があると感じます（予算執行も伴うため）。また、10 月～1月の間の本学図書館における展示・問い合わせの体制についても早期に考えておく必要があると感じています。

展示観覧風景

桜山祭における学生の大型絵本読み舞台発表

図２　平成 28 年度山口県大学 ML 連携活動「下関短期大学図書館」事業報告（山口県大学 ML 連携事業事務局編集・発行「山口県大学 ML 連携事業報告」平成 29 年３月発行）

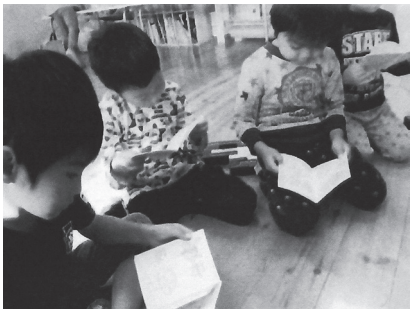


写真７　送付した手作り絵本をみる子ども達（田老保育所、平成 27 年秋撮影）

また、平成 27 年度中の活動としては、８月、東日本大震災被災地でもある宮古市市内の保育所（３施設）に、各 20 冊（合計 60 冊）送付したところ、11 月 16 日付で１施設より「友だちと一緒に色塗りしたり、読んだり、楽しんでいます。」（宮古市立田老保育所）という文と共に子ども達が手作り絵本を手に取る写真が掲載されたお礼状を頂いた（**写真７**）。お礼状に対する学生の感想は後述するが（**2•3•1**）、子ども達が手作り絵本を手に取る様子に触れ、学生達は、発表に対する達成感・充実感を味わうことができた。このように学生は、前期活動の調査研究・展示発表を通じて、各自が「食育」「絵本を媒体とした表現」、双方について実践的に学ぶことができた。

2・2・3　平成 27 年度前期活動小括

平成 27 年度前期活動を通じて得た学修成果をまとめると次の４つが挙げられる。

①〈全体活動〉食育に対する興味を深め、絵本に相応しい表現方法を工夫して、実践的な体験学習を行うことができた。

②〈調査研究〉「食育」には様々な側面があることを理解し（「心の財産づくり」「家庭の財産

づくり」「故郷の財産づくり」)、「山口県オリジナル野菜」への関心を高め、知識を深めることができた

③〈発表活動〉絵本を制作・発表することを通じて、著作権法を守る必要性があること、研究上、必要なことは専門機関に質問し、得た情報を内部で話し合い、共有することの大切さを学んだ。

④〈発表表現〉8頁という限られた頁数ではあるが、絵本制作・発表を通じて、題名・伝えたいテーマを絞り、調査結果に対して「分かりやすい表現・形式」の工夫を実践的に学んだ。

前期活動を通じて学生達は、調査研究活動（調査研究・実践発表)、双方に対して学習成果を得られた。平成25年度の本ゼミでは、所属者の中に書類提出を遅滞する学生が存在し、取り組み・成果報告の質や量にバラツキがあったが[7]、平成27年度は3名とも社会人経験者であったこと、全員が「食育」に高い関心を持っていたことから熱心に取り組み、作業に遅滞がみられる時は自主的に担当教員に相談する姿もみられた。絵本制作の統一主題は「食育」であったが、学生3名の興味・関心は異なっており、ミーティング時には、互いの作業の進捗状況を報告するだけでなく、調査研究の成果を共有しながら作業を行うことができた。従って、担当教員である筆者は、平成27年度前期授業を通じて、作業進行と情報共有（ディスカッション）の組み合わせによって、学生が次の具体的な作業目標を立てやすくなり、自分自身を客観視しながら成長できることが分かった。

2･3　平成27年度後期活動について

後期第1回目授業において、後期の活動内容・計画等についてディスカッションを行った。その結果、前期の絵本制作の経験を生かして「はなっこりー」を主題に食育表現の研究を行うこととした。具体的な活動は、第56回中・四国保育学生研究大会における研究発表（**2･3･1**)、大型紙芝居制作・発表（**2･3･2**～**2･3･6**）の2つである。

2･3･1 「第56回中・四国保育学生研究大会」における研究発表について

後期は、大型紙芝居の制作を行う作業と並行しながら、第56回中・四国保育学生研究大会（主催：中・四国保育士養成協議会、日時：平成27年11月22日㈰、会場：広島文教女子大学、以下「中・四国大会」と略記）の研究発表準備を進めた。発表区分は、「研究発表Ⅰ」（発表時間15分）であり、ノート型パソコンのスライド画面を映写してプレゼンテーション発表「食育表現の媒体作成に関する一考察　～地元食材を主題とした実践を通して～」を行った。本ゼミ所属学生は3名でだが都合により2名で発表した（**写真8**)。発表で使用したスライドの一部を示して概要を報告する（**図3**)。

発表構成は次の通りである（**図 3-1**）。

1. 研究目的（平成 27 年度本ゼミの活動目的について）
2. 研究方法（前期・後期の活動概要）
3. 研究内容（①地元食材「はなっこりー」研究、②手作り絵本制作・発表、③大型紙芝居制作・発表）
4. 考察（課題と反省、今後の取り組みについて）

写真 8　研究発表 IC-4 発表風景（第 56 回中・四国保育学生研究大会、平成 27 年 11 月 22 日）

発表において、最も工夫したのは「3. 研究内容」の部分である。

①「はなっこりー」研究についての発表では、中・四国大会は、他県の参加学生が大半を占めるため、「やまぐちの農林水産物需要拡大協議会」からキャラクター使用の御許可や写真の御提供頂いた「はなっこりん」（**図 3-2**、**3-4**）、畑で栽培している「はなっこりー」を入れたスライドを用意して（**図 3-3**）、説明を行うことにした。実際に当日、約 50 名がいた会場で、発表中２の冒頭で「はなっこりー」を知っているか挙手を求めたところ、挙手した参加者は僅か２名であり（内１名は、過去に下関在住経験有）、他県ではまだ認知度が低いことを実感した。

また、「3. 研究内容」における②前期の手作り絵本、③後期の大型紙芝居制作についての発表では、具体的な「改良点」を２つ挙げて説明した。それは、1）子ども達がより親しみが持てるよう「はなっこりー」の代わりに５歳女児「ちなちゃん」を主人公とすること、2）「やまぐちの農林水産物需要拡大協議会」に質問した結果分かった「わき芽」を収穫する「次々芽が出る元気野菜」であることを紙芝居では表現することである。但し、大型紙芝居は制作の途中だったため、発表直前の色塗りの途中状況しかスライドに掲載できなかった（**図 3-6**）。

更に、③大型紙芝居制作に関しては、中・四国大会直前の授業で行った「はなっこりー」の試食も発表した（第６回授業）。北九州市出身学生（１名）は「はなっこりー」を食したことがなかったため、前期授業中から収穫・市場販売の時期を心待ちにしていた。試食における調理は、市販の袋（裏面）に印刷された「調理のポイント」を参考にした。それは袋の「沸騰した湯に、はなっこりーを入れ短時間（１分間）で堅めにゆで、冷水で手早く冷やします。サラダ・和え物・炒め物は、ゆでて、てんぷらは、生のままお使い下さい」という記述である。即ち素材そのものの味を理解するため１分間茹でて試食した。但し、水茹でと塩茹での２種類を用意し、調味料は付けなかった。その結果、初めて食した学生は「想像していたよりも苦くなかった。これで具体的にイメージしながら紙芝居制作ができる」という感想を持った。また、他の学生は「水茹での方が柔らかく、塩茹での方が少し甘さを感じる」という感想を持った。

食育表現の媒体作成に関する一考察
―地元食材を主題とした制作発表について―

はじめに―本発表の概要―

- 1　研究目的　平成27年度活動の目的について
- 2　研究方法　―研究活動の概要―
  前期・後期活動の概要
- 3　研究内容　―研究対象と活動内容―
  ①地元食材「はなっこりー」研究
  ②手作り絵本　③大型紙芝居の制作・発表
- 4　考察―課題と反省―今後の取り組みについて

図 3-1　発表構成・発表概要

2　研究方法　―研究活動の概要―
平成27年度前期・後期活動

【前期】
- 「下関ぶちうま食育プラン」の研究
（体・心・家庭・故郷）
- 手作り絵本の制作
- 地元食材（山口県産）
「はなっこりー」

⇓

【後期】
- 絵本を基にした大型紙芝居の制作・発表

図 3-2　平成 27 年度前期・後期の活動概要

3　研究内容　―研究対象と活動内容―
①地元食材「はなっこりー」研究

- 平成2年山口県農業試験場で品種改良
※　山口県オリジナル野菜
（10月～4月に収穫）
- 下関市内にも流通
（テレビCMあり）
- 苦手な子もいる
⇓
子ども達に親しんで欲しい

収穫期を迎えた「はなっこりー」
（山口県農林水産部農業振興課園芸振興班提供）

図 3-3　研究内容①「はなっこりー」研究

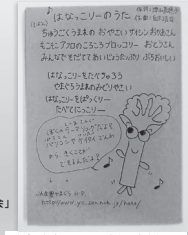
3 研究内容 ②「はなっこりー」主題手作り絵本

【あらすじの設定】
- 誕生～流通～消費

【キャラクターの決定】
- 既に親しみのある
イメージキャラクターの活用

⇓

- 「はなっこりん」使用許可願
「やまぐちの農林水産物需要拡大協議会」に書類提出



（参考）完成した手作り絵本の裏表紙

図 3-4　研究内容②「はなっこりー」主題手作り絵本

3研究内容 ②「はなっこりー」主題手作り絵本
【手作り絵本の工夫点】
- 8頁の中で内容を充実させた
（誕生・生長・出荷・栄養・料理・テーマソング）
- 「キューン」「ニョキ」など擬声語を使った。
- ブロッコリーはよく知られるが、サイシンは馴染みが薄い。葉の形など忠実に描いた。
- 輪郭線のみを描き、こども達がぬりえを楽しめるようにした

【発表】
- 岩手県宮古市内保育所3園に送付
（東日本大震災後に交流有、60冊）
（3月に付属幼稚園年長組に配布予定）

図 3-5　研究内容②【手作り絵本の工夫点】【発表】

3 研究内容　③大型紙芝居制作・発表
【絵本⇒紙芝居への改良点】
- 新キャラクターの設定⇒5歳児女子「ちなちゃん」が主人公

【絵本⇒紙芝居への改良点】
- 大画面に対する配慮（1頁分を大きく描く）
- 「わき芽」を収穫「次々芽が出る元気野菜」の強調

図 3-6　研究内容③大型紙芝居制作・発表

3 研究内容　③大型紙芝居制作・発表
【絵本⇒紙芝居への改良点】
【試食の実施】はなっこりーを約1分、ゆでて試食
- 水ゆで：苦みがなく茎が柔らか、塩ゆで：少し甘い
⇒実感をもって制作・発表が可能

図 3-7　研究内容③【試食の実施】

4　考察　―課題と反省―

【学んだこと】
- 「はなっこりん」：著作権手続きの必要性
- 生産者が大切に開発・生育する現状の理解
- 地元野菜の生育、及び旬の学習
- 試食して良さが分かった（実践の重要性）
- 「ねらい」に基づく方針の決定の重要性
（紙芝居：各々のあらすじ案の組み合わせ⇒どの場面を絵にするか悩んだ）
- 発表媒体の多様性・組み合わせ（紙芝居＋ペープサート＋効果音等）

【反省点】
- 研究：（栽培期が9月～4月で仕方がないが）栽培農家に直接インタビューをした方が良い
- 媒体作成：「ねらい」（伝えたい事）を決めておく必要がある
- 実践活動面：分業の大切さを学んだ
- 早めの計画・作業が必要

図 3-8　考察　―課題と反省―

図 3　研究発表「食育表現の媒体作成に関する一考察～地元食材を主題とした実践を通して～」スライドの一部

この試食経験もスライドに掲載して発表を行った（**図 3-7**）。

発表後、講評者である七木田方美先生（比治山大学短期大学部）からは以下の講評を頂いた。

- 発表を通じて学年を越えた良い授業があること、地域に根差した大学であることが良く分かった。
- ラングドシャ・クッキーを知っているだろうか？　フランス語で、ラング＝舌、シャ＝猫という意味である。実際に猫に舐められた経験がある人は、違った感覚を持つのではないだろうか？
- 絵本・媒体作成については、絵、対象をもっと意識すると良いと思う。実際に読むのは保護者ではないだろうか？
- 匂いや感触を味わってもらえるような言葉を入れて表現を工夫して欲しい。擬声語は子どもに届きやすいので、もっと工夫して欲しい。
- （個人的に食べた経験から）油で炒めるとより苦みを感じずに美味しいと思う。ビタミンの崩壊を防ぐ調理法もあるので、考えながら伝えて欲しい。
- 子どもは大人に比べて味覚を感じる味蕾の数が多いので、子どもは苦みを感じやすいことを忘れないで欲しい。
- （絵本や媒体に）栽培の様子、大人からの言葉かけの様子なども入れると良いのではないか？

中・四国大会終了直後の授業では、参加できなかったゼミ学生も含め、研究発表時に撮影したビデオを視聴し、反省会を行った（第７回授業）。同時に宮古市の保育所（田老保育所）から送付された 11 月 16 日付のお礼状も紹介した（**2•2•2**）。双方の結果を併せて、1）発表について、2）講評と今後の大型紙芝居制作について、3）中・四国大会に参加して全体の感想・反省、4）絵本を送付した保育所からのお礼状への感想、以上４点についての意見を交換した。

1）発表について

≪発表の準備と当日の表現について≫

- 直前まで準備不足だった。発表練習をもっとすべきだった。他大学の発表はきちんと練習出来ていたことを感じた。
- 準備として質疑応答まで頭に入れておくべきだと思った。「はなっこりー」の質問ではなく絵本についての質問を受けたので驚いた。
- （ビデオを観て）発表の時、最後は焦ってしまい早口になっていた（ことが分かった）。
- 「6 つ」が「3 つ」に聞こえた場面もあり、滑舌が悪かった。

・スライドを変える時は、もう少し間をあけた方が良かった。また、前に目線を配ると印象が良かったかもしれない。
・発表原稿を読むのではなく、自分達なりの言葉でかみくだいて分かり易く説明したことは評価できると思う。

≪発表内容・絵本制作について≫

・実際に制作した絵本や野菜「はなっこりー」の袋などを見せたのは良かったと思う。
・はなっこりーが育つ様子をもう少し掘り下げて説明した方が良かった。
・実際にはなっこりーを食べた子どもの感想も入れた方が良かった。
・絵本を作る時にもっと全体の構想を細かい所まで考えるべきだった。

2）講評と今後の大型紙芝居制作について

・「もっと、こうしたら良い」という具体的な指摘をされたのでよく分かった。
・指摘通り、擬声語をもっと増やし、匂いや感触を言葉で表現することは難しいが子どもには分かりやすくなり、楽しいと思った。
・口頭では伝えにくい匂いや感触を分かり易く伝えるにはどんな言葉があてはまるか考えたい。
・「大人からの言葉かけの様子」とおっしゃったが、どんなものなのかが分からない。
・苦味や栄養価など、もっと追及すれば食育の研究としてより深まると思う。

3）（中・四国大会に参加して）全体の感想・反省

・自分達がやってきた活動をまとめたものを観て、改めてどんなことを学んできたのかが分かった。
・伝えたいことを明確にする。　　・何かする時は時間を意識する。
・思い付きも大切だが、やる前にもう少し考えて工夫することも大切だと思った。
・子どもに伝わるようにもっと絵本を読んで研究したい。

4）絵本を送付した東日本大震災で被災した宮古市内の保育所からのお礼状への感想

・作っている時は、どんな風になるのか分からなかったが、保育所の先生が書いて下さったお手紙と子ども達の笑顔と絵本を持っている姿を見て、とても感動した。
・子ども達が手に取っている様子をみて、私達の方が心があたたかくなり、元気をもらった。
・子ども達が笑顔になるお手伝いを少しでもできたことは、こちらが笑顔になる。
・自分もきちんとした手紙を書けるようにならなければならないと思った。

学生は、中・四国大会参加、ビデオ鑑賞、反省会での意見交換を経験し、客観的に自己の活動・表現方法を振り返り、自主的に今後の目標を設定することができた。それは、上記の意見交換に続けて今後の大型紙芝居制作で伝えたいこと（強調したい場面）に関する話し合いである。その結果、1）はなっこりーができた背景、1）はなっこりーの生長・収穫の様子（「次々

芽が出る元気野菜」を分かり易く伝える)、3）生産者が愛情をもって育てていること、以上の３点に決定し、大型紙芝居の制作・発表の準備を進めることとした。

2･3･2　平成27年度後期活動　食育大型紙芝居「はなっこりーのぼうけん」制作過程

平成27年度後期（９月～２月)、本ゼミ所属学生３名は、前期に得た研究知見（はなっこりー研究、手作り絵本制作)、及び中・四国大会での発表経験を基に（**2･3･1**)、表現媒体の制作・発表（大型紙芝居、上演時間約15分間）を行った。

紙芝居の制作は、①制作および発表目的・ねらい（来場者・子ども達に何を伝えたいか）の決定、②あらすじの決定・登場人物等の設定、③上演における表現方法の決定、④台本作成と紙芝居・ペープサート制作、という順で行った。①は、先述したように、前期の手作り絵本制作「はなっこりーのぼうけん」及び中・四国大会を通じて「1）はなっこりーができた背景、2）生長・収穫の様子、3）生産者が愛情をもって育てていること」以上の３点に決定した(**2･3･1**)。

「②あらすじの決定・登場人物等の設定」における原案作成は、前期手作り絵本「はなっこりーのぼうけん」を基にしたが、大きな変更点は、主人公を「はなっこりん」からはなっこりーが好きな下関市内在住の５歳女児「山口ちなちゃん」にしたことである。これは、鑑賞する子ども達に親近感が湧くようにすること、ゼミ学生の親類に「はなっこりー」が好きな女児がいたことに因む。

写真９　２種のペープサート（向かって左が表、右が裏面）はなっこりーの妖精「はなっこりん」、主人公「山口ちなちゃん」

「③上演の表現方法」は、大型紙芝居を主体とし、1）紙芝居の絵だけで物語を展開する、2）ナレーター役の学生（１名）と紙芝居を背景として主人公「ちなちゃん」（１名）と「はなっこりん」（１名）のペープサートを使用した表現（本体48×28㎝、**写真９**)、以上２つを効果的に併用した。なお、音響・照明等は、他のゼミナール所属学生に依頼した。

2・3・3　大型紙芝居「はなっこりーのぼうけん」あらすじについて

ナレーション（１名、数種のペープサートも使用)、紙芝居（背景、６枚の模造紙：78.8×109.1㎝)、ペープサート（２名）を組み合わせて物語を展開した。各場面のあらすじは次の通りである。

第１場面　（導入：本紙芝居の主題紹介、紙芝居は白紙の表紙）

写真 10「はなっこりー」ペープサート

導入では紙芝居は表紙（白紙）にしておき、ナレーター（２年生１名）が「こんにちは」と挨拶した後、「はなっこりー」が描いてあるペープサートを「はなっこりーの歌」のメロディーを音響（鉄琴）で流しながら掲げる（**写真 9**）。野菜の「はなっこりー」を知っている子どもに挙手を求め、この紙芝居には「はなっこりー」が登場すること、「いつ出て来るか楽しみだね」と呼び掛けて、紙芝居が始まることを伝える（**写真 4**）。その後、出演者全員による「はじまり、はじまり～」という声で、紙芝居を始める。

第２場面（紙芝居１枚目、写真 11：題名と主人公「ちなちゃん」）

写真 11　紙芝居１枚目（第２場面　題名と買物中の主人公「ちなちゃん」）

紙芝居１枚目を提示（写真 11）。下関市に住む「山口ちなちゃん」は、はなっこりーが大好きな５歳の女の子で、11 月のある日、母親と買物に出かける。ちなちゃんは、近頃、はなっこりーを見ないので、母親に尋ねると、母親は「はなっこりーは夏の間はお店に出てこないのよ。もうすぐ会えると思うんだけど」と伝える。

第３場面（紙芝居２枚目・写真 12：夜、就寝中のちなちゃん）

写真 12　紙芝居２枚目（就寝中のちなちゃんと「はなっこりん」）

母親と買物した夜、ちなちゃんが寝ていると、「はなっこりー」が現れる（ペープサートで登場、**写真 12**）。ちなちゃんが誰か尋ねると、はなっこりーの妖精「はなっこりん」であることを告げる。「はなっこりん」は、昼間、自分のことを一生懸命、探してくれたお礼に「はなっこりーの国」に案内する。

第４場面（紙芝居３枚目・写真 13「はなっこりーの国」、写真 14：「はなっこりん」の家族）

写真 13　紙芝居３枚目（「はなっこりーの国」、右端：イタリア生まれの「ブロッコリー」、左端：中国生まれの「サイシン」）

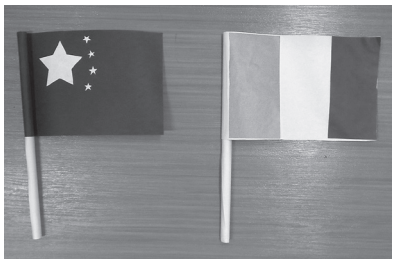


写真 14 左：中国国旗　右：イタリア国旗

ちなちゃんは、はなっこりーが住む楽園「はなっこりーの国」に着くと、「はなっこりん」の家族を紹介してもらう（**写真 13**）。「はなっこりん」のお父さんは、モコモコ頭でイタリア生まれの「ブロッコリー」で、お母さんは中国生まれの「サイシン」であること、この二人は違うところで生まれたが、山口県の人が出会わせてくれたこと、つまり「はなっこりー」は、山口県の人のお陰で生まれたことを告げる。ナレーターは、ブロッコリーを紹介する時はイタリア国旗、サイシンを紹介する時は中国国旗を挙げながら説明する（**写真 14**）。

第５場面（紙芝居４枚目・写真 15：はなっこりーの生長）

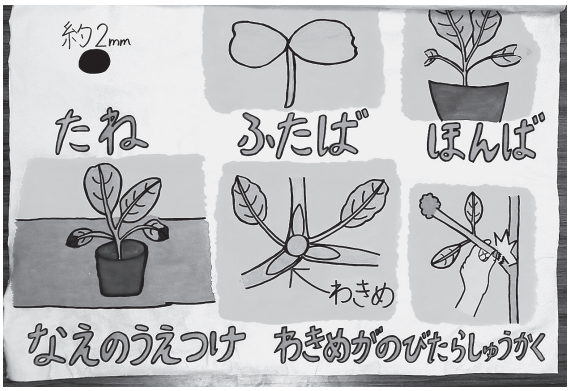


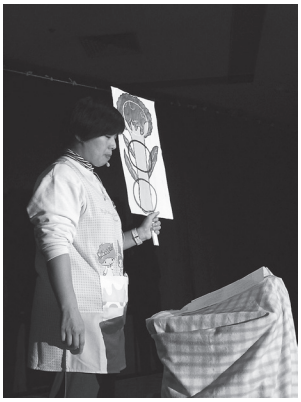
写真 15　紙芝居４枚目（はなっこりーの生長）

写真 16 「苗」の模型を示すナレーター（平成 28 年３月３日撮影）

ちなちゃんは「はなっこりん」の兄弟の中に小さくて黒い粒がいるのを見つける。これは「種」で、８月に小さな植木鉢に植えて、１週間位すると「ふたば」（双葉）が生え、更に２週間経つと「ほんば」（本葉）が２枚揃った「なえ」（苗）になるので、その「苗」を広い畑に植

えると、ぐんぐん育つことを「はなっこりん」から教えてもらう（**写真 15**）。「苗」を解説する時、ナレーターが「これが苗です」と模型を示す（**写真 16**）。

第６場面（紙芝居３枚目・写真 13「はなっこりーの国」、写真 17：はなっこりーの可食部分）



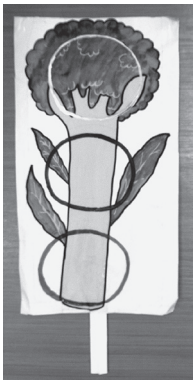


写真 17　右：「はなっこりー」ペープサート
左：質問時にペープサートを掲げるナレーター

（紙芝居を３枚目「はなっこりーの国」に戻す、**写真 13**）「はなっこりん」が畑で育ったはなっこりーを示し、生長した後、秋になると食べられることを告げる。そして、「はなっこりん」は、ちなちゃんと会場の人々に「はなっこりーはどの部分が食べられるのか」（1 上の花が咲く部分、2 真ん中の葉っぱと茎の部分、3 下の茎が中心の部分）尋ね、手をあげてもらうよう伝える（**写真 17**）。参加者が挙手した様子を確認した後、「はなっこりーは、茎も柔らかいので茎や葉も全部食べられるから、みんな正解だよ」と伝える。

第７場面（紙芝居４枚目・写真 14　はなっこりーの生長、写真 18 ～ 20：収穫と「わき芽」）

写真 18　はなっこりーの生長と「わき芽」（練習風景）
「わきめ」と書かれたペープサートを示すナレーター

写真 19「わき芽」を示したペープサート

写真 20　ブロッコリーの収穫部分を示したペープサート

（再び紙芝居を４枚目「はなっこりーの生長」にめくる）ちなちゃんが「はなっこりーは全ての部分が食べられるから食べると元気になるんだね」と感心していると、「はなっこりん」は「もうひとつ元気になる秘密がある」と言う。それは、「つぎつぎ芽が出る元気野菜」であ

ること、つまり「はなっこりーは、わき芽を食べている」と伝える（**写真 18**）。ちなちゃんが、「わき芽ってどこなの？」と尋ねると、「横から生えてくるのが“わき芽”だよ」と紙芝居の絵とペープサートを示し（**写真 19**）、わき芽の場所を説明する。更に「はなっこりん」は、お店に並ぶ「ブロッコリー」は、株の中心が大きくなった物だが（**写真 20**）、はなっこりーは「わき芽」であり、１つの苗から約３カ月で 50 本も採ることが出来るので、「元気野菜」と呼ばれることを説明する。

第８場面（紙芝居５枚目・写真 21：はなっこりーの出荷）

写真 21-1　紙芝居５枚目「はなっこりーの出荷」

写真 21　第８場面上演風景（はなっこりーの出荷）

「はなっこりん」は、沢山の人々に食べてもらうために、「はなっこりーの国」を出発して、ちなちゃんがいる下関以外にも出かけると説明する。山口県で生まれた「はなっこりー」は九州だけでなく、700km も離れた関東の岐阜まで旅に出ることを紙芝居の地図を示しながら伝える（**写真 21**）。

同時に「はなっこりん」は、「山口県の農家の人が、ぼくたちのことを大切に育ててくれているから、もっともっと沢山の人に食べてもらえたら嬉しいな」と言う。

第９場面（紙芝居３枚目・写真 13「はなっこりーの国」、

紙芝居２枚目・写真 22　朝、母親に起こされるちなちゃん：「はなっこりん」との別れ）

（紙芝居を３枚目に戻す、**写真 13「はなっこりーの国」**）。「はなっこりん」が「今日は、一緒にはなっこりーの国に来てくれてありがとう」とお礼を言い、自分は、家族のもとに戻ると告げる。ちなちゃんが、「折角会えたのに」と別れを惜しむと「大丈夫、すぐに会えるよ」と「はなっこりん」は言って去ってしまう。（ここで場面転換、紙芝居２枚目：太陽が描かれた紙に変える）

写真 22　朝、母親に起こされる「ちなちゃん」
（紙芝居２枚目上部、月の部分を太陽に変更）

「はなっこりん」と別れたちなちゃんが、自分の名前を呼ぶ母親の声に気付くと、朝になっていた（**写真 22**）。母親は、「もう７時よ！お父さんは会社に出かけたわ。ちなちゃんも朝ごはんを食べて幼稚園に行きましょう」と起こしてくれたのだった。

第 10 場面（紙芝居６枚目・写真 23：はなっこりーの料理が並ぶ朝食とちなちゃん）

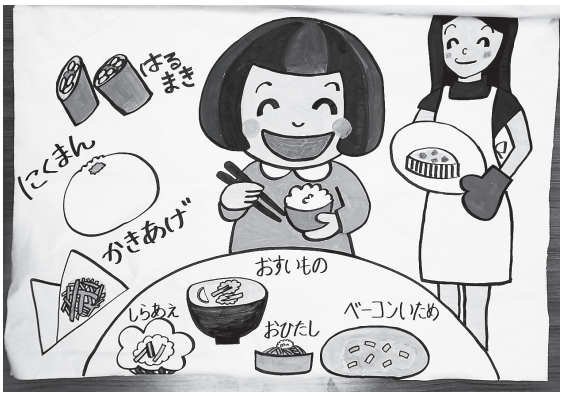


写真 23　はなっこりーの料理が並ぶ朝食を食べる
ちなちゃんとグラタンを作る母親

ちなちゃんが起きて、食卓に着くと「はなっこりー」が入っている〈白和え〉〈おひたし〉〈お吸い物〉〈ベーコン炒め〉が並んでいた（**写真 23**）。昨日、買い物に行った時にはなかったので何故あるのか母親に尋ねると「ちなちゃんが寝た後、お父さんが持って帰ってくれたのよ！お仕事先で貰ったんですって」と説明する。

ちなちゃんは「はなっこりん」が「すぐに会えるよ」と言ったことは本当で、「はなっこりん」は夢ではなかったと実感する。そして、ちなちゃんが「はなっこりー、久しぶり。シャキシャキしてて美味しいな」と喜んでいると、母親は「お父さんも今夜は早く帰るから、中華風にしてはなっこりーのかき揚げ、肉まん、春巻きを用意するから楽しみにしていてね！」と言う。ちなちゃんは、更にグラタンも作ってくれるようにお願いする。母親は「分かったわ。沢山食べて、幼稚園に行こうね」と答える。親子の会話後、ナレーターが、「お話

はこれでおしまいだけれど、みんなのところにも「はなっこりん」が来てくれて、もっとお話してくれるかもしれませんよ」と伝える。出演者である学生３名が紙芝居の前に集合し、観客に対して「山口県の元気野菜　はなっこりー」「食べたら元気が出るし、美味しいよ」「みんなも食べてね！」と語り掛け、「ありがとうございました」と挨拶をして終了する。

2・3・4　食育紙芝居「はなっこりーのぼうけん」制作・上演上の工夫点

紙芝居の表現は、中・四国大会での発表経験を基に（2•3•1）、特に以下の点を工夫した。

【①　擬声語・オノマトペを増やす：匂いや感触を言葉で表現】

中・四国大会の講評で「匂いや感触を味わえる言葉・擬声語の工夫」「子どもは苦みを感じやすい」という指摘を頂いたことをふまえ、実際に「はなっこりー」が幼少期から好きな子ども（学生の親類）に尋ねた。すると「さっと茹でて食べた時や炒めた時のシャキシャキした食感・歯ごたえが好き」という感想を得た。この感想を基に紙芝居では「シャキシャキしてて美味しいな」という台詞を入れた（第10場面）。その他にも「もこもこ頭のブロッコリー」（第4場面）、「キラキラ輝くおひさま」「ぐんぐん育つ」（第５場面）など情景が想像しやすいようなオノマトペを考えた。同時に、言葉の表現に応じたペープサートの動き（例：「ぐんぐん育つ」の時には上方に少しずつ移動させる）を工夫した。オノマトペだけでなく、はなっこりーの種（黒色、直径2mm）を分かり易く説明するため「お米ひとつぶより小さい種」「ゴマ粒みたいな小さな種のあかちゃん」（第５場面）など、身近な物にたとえながら紙芝居を展開するように工夫した。

【②　言葉かけについて】

中・四国大会における指摘を基に「大人からの言葉かけ」について、紙芝居で出来ることを考えた。その結果、紙芝居の冒頭でナレーターが「はなっこりー」を知っているか尋ねること（第１場面）、「はなっこりー」のどの部分が食べられと思うか挙手してもらうこと（第６場面）、以上２つの質問に子ども達に参加してもらうことを考えた。その他にも、主人公ちなちゃんの母親との買物の場面（第２場面）、「お父さんも今夜は早く帰るから（はなっこりーの料理を）楽しみにしててね！」（第10場面）といった母親からの呼び掛けを工夫した。更に「はなっこりん」による「「山口県の農家の人が、ぼくたちのことを大切に育ててくれているから、もっともっと沢山の人に食べてもらえたら嬉しいな」（第８場面）という観客に呼び掛ける言葉を考えた。

【③　はなっこりーの良さを伝える】

中・四国大会後の反省会をふまえ「栄養価など追及して伝える」という課題があがった。そこで、「やまぐちの農林水産物需要拡大協議会」ホームページにて公表されている山口県環境保健研究センターによる分析値「栄養成分」を基に[13]、母親の台詞に「はなっこりーはビタ

ミンCもたっぷりで、風邪の予防にもなるのよ！どんどん食べてね！」（第10場面）という言葉を入れ、観客の保護者にも関心を高めて頂くように配慮した。

2・3・5　食育紙芝居劇「はなっこりーのぼうけん」初回上演後の感想・反省

実践概要で述べたように（**2•1**）、上演は2回行い（1回目「第28回下関短期大学保育学科創作発表会」12月12日、2回目「親子おにぎり作り教室」平成28年3月3日）、ほぼ台本通り約15分間で行った。第1回目の上演後、第12回目の授業にて担当教員を交え、撮影したビデオを鑑賞し、意見交換を行ったところ、以下の意見が得られた。

【学んだ点・評価できる点】

- 限られた時間で、それぞれが協力し合い、本番を迎えることが出来た。協力し合い、上手く時間を使えば完成させることが出来る事が分かった。
- 自分達も楽しく本番を迎え、子ども達に「はなっこりー」について楽しく伝えることが出来た。
- 年齢の低い子は（舞台上から）途中ソワソワした動きがみられたので、少し飽きていると感じた。
- 照明の重要性が分かった。ペープサートの色が、光の具合で異なる色にみえることが分かった。
- 食育の内容が子どもには少し難しいかもしれないと不安だったが、子ども達は、ペープサートの動きや何度も出てくる場面（紙芝居3枚目「はなっこりーの国」**写真13**、紙芝居4枚目「はなっこりーの生長」**写真15**）に喜んでいた。
- 子ども達に伝わるのか心配だったが、前方にいた子ども達が呼びかけやクイズに答えてくれたので、嬉しかった。

【改善が必要な点】

- 紙芝居・台本が完成したのが12月で、台詞を読み込み、発表の表現を考える時間が少なく、練習不足だった。何をするにも準備が早く終わっていると後が楽だと思った。
- 練習の時より、大きなステージでは少し早口になっていた。本番で言い間違えた時、想像以上にあせってしまうことを実感した。
- もっと、ペープサートの動きを大きくして子ども達にわかり易くした方が良い。

（例：「はなっこりん」が登場する時、ちなちゃんがもう少し大きく動いて驚いた表情を強調する。

「次々芽が出る元気野菜」と言う時に強調するため、ちなちゃんと「はなっこりん」双方のペープサートをもっと大きく上下に動かす。

・ナレーターも、淡々と話すだけでなく、効果的な動きを考えた方が良い。
・台詞とペープサートの動きの関係をもう少し考えた方が良い。また、紙芝居の後方から台詞を言うと声が通りにくいことをもっと考える必要があった。

これらの意見は、第２回目の上演に向けた改善事項に組み込むこととした。具体的には、台本の改善と反省に基づいた練習、双方を第13回目授業以降に行った。

2・3・6　食育紙芝居劇「はなっこりーのぼうけん」初回上演後の改善と第２回目上演

先述の通り、初回はシーモールホールという観客が約180名程度収容でき、音響・照明設備を用意した施設における一般市民対象の発表であった（**2•3•3**）。これに対し、第２回目の発表は、３月３日、付属第二幼稚園年長クラス20名（当日１名欠席、保護者１名ずつ同伴）を対象にした本学栄養健康学科と付属幼稚園との連携による食育活動「親子おにぎり作り教室」（於：下関短期大学調理室、以下「おにぎり教室」と略記）であった。平成27年度は、短大側が園舎に出向くのではなく、園児と親子が学内の調理室に集合して実施した。具体的な活動としては、調理（保育学科学生も親子の調理班に入って作業）・会食（献立：おひなむすび・豚汁・三色団子・うさぎリンゴ）を行った後に、紙芝居の上演を行わせて頂いた[15]。

写真24　「おにぎり教室」献立盛り付け例（左手前「おひなむすび」と「はなっこりーマヨネーズ添え」）

平成27年度は「はなっこりー」を主題とする紙芝居を披露することを10月上旬、栄養健康学科担当教員（塩田博子・芳賀絵美子）に伝えた。そこで、おひなむすびの両脇に「ぼんぼり」に見立てた「はなっこりー」にマヨネーズを添えて付け合わせにすることとして頂き（**写真24**）、総合的な食育活動として調理・試食・紙芝居を通じて地元野菜への関心を高めて頂けるよう配慮した。同時に、本ゼミ学生も栄養健康学科主催の事前調理実習（リハーサル）に参加させて頂いた（平成28年２月22日）。「おにぎり教室」当日と同じ献立の調理・試食を行うことによって、一日の流れが実感でき、紙芝居の表現を見直し、「食育活動」全体に対する関心を深めることができた。事前調理実習後の紙芝居練習では、冒頭の言葉かけを工夫する必要があるという学生の意見が出たため、「はなっこりー、全部食べた人？」「初めて食べた人？」「（上演日が３月３日であることに因み）今日はひな祭りだね？　おにぎりのお雛様の横に何が

飾ってあったかな？」（第１場面）、「今日、みんなが食べたはなっこりーは、どの部分かな」（第６場面）など、その場の状況に応じて言葉かけができるよう、予め複数の子どもに対する質問を考えた。その他、第２回目上演にむけた練習時の主な留意事項は次の通りである。

・初回より台詞をゆっくりと語尾までハッキリ聞こえるように練習する。

・マイクがない分、できるだけ大きな声で台詞を伝える。

・子ども達の反応に即した言葉掛けが出来るよう、複数の反応を予め想定しながら練習を行う。

１月初回授業の台本修正・読み合わせ後、上記３点に配慮しながら５回の練習（１月３回、２月後期試験終了後２回）をへて、第２回目の上演に臨んだ（**写真 25**）。

写真 25　親子おにぎり教室の紙芝居上演風景（第４場面「はなっこりーの国」、平成 28 年３月３日）

「おにぎり教室」会食後の上演では、第１場面の導入時において、ナレーターが「はなっこりー」について「これは何かな？」など、ペープサートを出して尋ねる予定だったが、はなっこりーのペープサートを出した直後に子ども達から「はなっこりー！」「マヨネーズつけて食べた！」「全部食べた～」などの声があがったため、「よく分かったね。みんなで食べたね！」など、ナレーターの学生は、場に応じた臨機応変な言葉掛けが必要であった。また、第６場面は、初回上演時では「どの部分が食べられるか」という質問を行ったが、「おにぎり教室」では調理・試食を体験したため、「①花が咲く部分、②葉っぱと茎の部分、③茎の部分、どこが一番好きかな？」という質問を行った。すると、子ども達から「今日は茎しか食べなかった」「全部食べれる～」「マヨネーズがおいしかった」など、個々の体験に応じた積極的な発言を行う子どもの姿がみられた。子ども達は、紙芝居の最後まで私語をせずに聴き、終了後は子ども達全員から発表者に対して「ありがとうございました」というご挨拶を頂いた。

また、「おにぎり教室」終了後、栄養健康学科教員は、参加家族に対してアンケートの配布・記入を依頼しておられる。その紙面にて、紙芝居表現に対し「紙芝居は分かりやすかったですか？」という設問を追加して頂いた。集計の結果は「分かりやすかった」（10 家族、67%）、

「まあまあ分かりやすかった」（3家族、20%）、分かりにくかった（0家族、0%）、無回答（2家族：早退2家族、13%）であった。約7割が「分かりやすかった」と答え、「分かりにくかった」という回答がなかったことから、参加者は紙芝居発表に対して興味をもって鑑賞したことが分かった。

付属第二幼稚園での発表終了後の反省会において、学生から次のような感想・反省が出た。

【上演発表後の感想】

- 子ども達全員が「はなっこりー」を調理して、食べた直後だったので、とても関心を持って聞いてくれたことが伝わって来た。
- 質問やクイズなど、元気な声で返事をしてくれたので、嬉しかった。
- 12月の創作発表会の時よりも、落ち着いて表現、発表することができた。
- 「ひな祭り」や行事を考慮して発表することの大切さを感じた。
- （スタッフで）協力して、最後まで諦めずに制作・発表する大切さを実感した。
- 親子で活動すると、子どもだけの時とは別の表情を見せてくれる気がした。楽しみながら食育活動をすることが大切と感じた。

3　おわりに　―平成27年度活動の感想・反省―

本稿では、平成27年度における食育表現ゼミナールの活動について報告を行った。本ゼミの目標である「『食育』に関する『言語表現』活動実践を通じた保育学科学生の資質向上」は、概ね達成できたと考えられよう。

本ゼミ所属学生は、前期「食育」を主題とした手作り絵本の制作・研究調査・発表を中心に学習を進めることによって「ぶちうま食育プラン」を中心とした「食育」に関する知見を深めると同時により良い発表方法について実践的に学ぶことができた。後期は、山口県オリジナル野菜「はなっこりー」を中心とした研究・発表活動と「大型紙芝居」作成・発表を中心に活動を行った。一連の活動を通じて、食育に対して考察を深め、媒体・表現の工夫について学ぶことができた。

担当教員の平成27年度学習成果に対する所感は、次の通りである。

①前期の「山口県の農産物」研究・ポスター発表を土台とした具体的な表現の探求ができた。但し、「絵本」という媒体に親しむことを優先して、子どもの言語の発達、具体的なテーマをしぼって制作することに関しては重視しなかったため5歳児だけで読むには少し難解な絵本となった。

②前期、はなっこりーについて「やまぐちの農林水産物需要拡大協議会」への質問を通じて、

山口県オリジナル野菜に関する知識を深め、「地元野菜」について興味を深めることができた。

③通年の活動を通じ、食育だけでなく著作権や絵本・紙芝居制作（表現）、発表に対して実践的に考察を深める事ができた。

④（後期活動）11月中・四国保育学生研究発表大会、12月創作発表会・3月親子おにぎり教室、3回の発表とも全員で協力して研究・制作・発表し、反省を重ねながら実践できた。

上記の内、特記すべきは、「自己を客観的に振り返る」活動の重要性である。ポスター発表・感想文作成だけでなく、平成23年度から導入してきた「上演・発表録画DVDの鑑賞・反省会」は効果的と考えられる。この録画DVD鑑賞会は、平成23年度に導入後、毎年継続してきた。鑑賞会では、自分達が上演した舞台発表を客観的にみることができるだけでなく、「この言葉の滑舌が悪く意味がとりにくい」「この場面は、ペープサートをもっと大きく動かすべきだった」「この場面では子どもの声が聞こえる」など、発表・上演時には把握できなかった自分の改善点、観客の様子・周囲の状況が確認できるという利点がある。学生は、自分達の上演に対して「発表媒体作成者」「上演者」「照明・音響担当者」「観客（子ども）」「観客（保護者）」、複数の立場に立って鑑賞・反省することが出来、自ら進んで改善点を出し合い、表現媒体・発表方法の改善に結びつける成果をあげることができた。つまり、本ゼミの活動を通じて、学生達は自分達の活動を客観的に観察した後、自主的に改善しながら展開してゆく力を持っていることが確認できた。

従って、今後も学生の主体的で深い学びを重視したアクティブ・ラーニングを展開し、保育現場や地域に根差した「食育」を主題とした総合的な活動が必要と考えられる。

謝辞

平成27年度、食育ゼミナール活動を行うにあたり御教示頂きました「やまぐちの農林水産物需要拡大協議会」様、「山口県農林水産部　ぶちうまやまぐち推進課」様（平成27年度担当者　末田慎一様）、「山口県農林水産部農業推進課園芸振興班」様（平成27年度主任　杉山久枝様）、「第56回　中・四国保育学生研究大会」研究発表IC-4講評者（比治山大学短期大学部：七木田方美先生）、本学教員（栄養健康学科：塩田博子教授・芳賀絵美子助手）、参加した保育学科学生〔平成27年度：2年生1名（小西真琴）、1年生2名（大川智美・久留優美）〕、本稿に対して和文題名・要旨を英訳頂いたDavid Kalischer氏（もと福岡市総合図書館映像資料課勤務）に対し、記して皆様方に謝意を表します。

注）参考文献・論文・URL

（１）下関市編集・発行：「下関ぶちうま食育プラン」，46pp.，2008 年
下関市編集・発行：「第２次　下関ぶちうま食育プラン」，50pp.，2013 年
（２）民秋言ほか編：「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷」，萌文書林，pp.316，2017 年
（３）高杉志緒：保育学科ゼミナールにおける「食育」実践報告―「山口食育カルタ」制作を通して―，下関短期大学紀要，29 号，pp.9-26，2011 年
（４）高杉志緒：保育学科ゼミナールにおける「食育」実践報告 第３報―大型紙芝居制作・発表を通して―，下関短期大学紀要，32 号，pp.35-54，2014 年
（５）高杉志緒：保育学科ゼミナールにおける「食育」実践報告 第２報―「食育双六」制作・被災地送付を通して―，下関短期大学紀要，30 号，pp.13-24，2012 年
（６）高杉志緒：保育学科ゼミナールにおける「食育」実践報告 第４報―平成 24 年度の大型紙芝居制作・発表を通して―，下関短期大学紀要，34 号，pp.1-18，2016 年
（７）高杉志緒：保育学科ゼミナールにおける「食育」実践報告 第５報―平成 25 年度の大型紙芝居制作・発表を通して―，下関短期大学紀要，35 号，pp.19-44，2017 年
（８）塩田博子・稲員祥子・高杉志緒・芳賀絵美子：第２回「おいしいね　たのしいね！」公開講座開催報告，下関短期大学紀要，33 号，pp.53-72，2015 年
（９）塩田博子・高杉志緒・芳賀絵美子・稲員祥子：「第３回　おいしいね　たのしいね！」地域貢献事業開催報告，下関短期大学紀要，34 号，pp.43-66，2016 年
（10）木村研：１枚の紙でできちゃう　インスタント絵本「わくわく！びっくり！かんたん手づくり絵本」，チャイルド社，pp.18-19，2012 年
（11）河野光子・堀尾昇平・稲員祥子・高杉志緒：第３回　作品展と工作体験「みて，つくって，楽しんで－被災地の子どもを応援しよう―」開催報告，下関短期大学紀要，30 号，pp.25-46，2012 年
（12）全国農業協同組合連合会 山口県本部（JA 全農やまぐち）：正直やまぐち＞正直通信＞農産物のお話　はなっこりーのお話，www.yc.zennoh.or.jp/web/shoku/0402_1.html（Copyright © 2004 JA ZENNOH YAMAGUCHI All Rights Reserved）
（13）やまぐちの農林水産物需要拡大協議会：やまぐち農・水・畜産物＞ぶちうま！やまぐち net ＞ 11 月の旬「はなっこりー」（Copyright（C）2000-2009 やまぐちの農林水産物需要拡大協議会 All Rights Reserved.）
（14）山口県大学 ML 連携事業事務局編集・発行：「山口県大学 ML 連携事業報告」,p.2，2017 年３月
（15）芳賀絵美子：下関短期大学付属幼稚園と連携した「おにぎり教室」実践報告　第１報，下関短期大学紀要，36 号，pp.65-72，2018 年